

施設類型	3. 河 川	河川 - 全般 2
------	--------	-----------

(サブテーマ) 文化を活かす	(展開項目) ○地域から学び、地域になじむ
-------------------	--------------------------

(キーワード)	(配慮すべき事項)	(参照)
[地域特性の把握]	1. 河川沿いの土地利用や町並み景の特性を把握したうえで、それに 応じた景観形成の方針をたてる。	
[景観資源の活用]	2. 河川沿いの景観資源を河川景に取り込み、活かす。 [景観資源]・流軸上の山並や樹林、河川沿いの大木・シボルツリ、 ・河川沿いのひろがり景、シボル建築、橋梁、など。	P24 デザイン3(9) P24 デザイン3(10)
[周辺景観との連携]	3. 河川沿いの景観と一体となるよう配慮する。河川空間を含めた 河川沿いの道路や建築物、広場の配置や向きに関して、周辺部と の連携を図りながら、総体的な景観形成を促進する。	

(サブテーマ) 文化を活かす	(展開項目) ○文化を受け継ぎ、育む
-------------------	-----------------------

(キーワード)	(配慮すべき事項)	(参照)
[歴史資源の保存と 活用]	1. 石橋などの沖縄の歴史的・文化的な河川構造物の保存と活用を 図る。	P31 デザイン5(5)
[歴史・文化イメージの 表出]	2. 歴史地区においては、河川の歴史を知ったうえで、空間整備や 構造物のデザインに、風土性・歴史性を反映させる。	P42 デザイン10 P46 デザイン11



● 歴史地区の橋梁整備、歴史的なイメージを復元している。
(那覇市、首里)



● 王府時代の石橋を保全し、歴史的景観要素となっている。
(那覇市、首里)

施設類型	3. 河 川	河川 - 全般	3
------	--------	---------	---

(サブテーマ) くらしを彩る	(展開項目) ○開かれた場を創り出す
-------------------	-----------------------

(キーワード)	(配慮すべき事項)	(参照)
[ゆとり空間の確保]	1. できるだけ河川空間のゆとりを確保する。	P38 デザイン8(2)
[周辺とのつながり]	2. 河川沿いの残地やへた地を積極的に河川空間に取り込み、景観形成に活かす。	
[眺望の場所]	3. 河川沿いに親水性の高い水辺の道を整備し、周辺部から水際へ近づきやすいよう配慮する。	P24 デザイン3(10)
	4. 河川敷と、隣接する公園・広場とを一体的な空間として整備することで、河川空間をより身近に、多様に活用できるようにする。	
	5. 直線的な河川でビスタ(通景)を活かしたり、ひろがりある河川では眺望点を設けるなど、河川景を享受できる視点場での、スポット整備を行う。	P35 デザイン7(1)

(サブテーマ) くらしを彩る	(展開項目) ○いきいきした場をつくる
-------------------	------------------------

(キーワード)	(配慮すべき事項)	(参照)
[適度なスケール]	1. 河川構造物は、固く単調なイメージを柔げるため、スケールの分割や形態の分節化を図る。	P33 デザイン6(1)
[快適な水辺空間整備]	2. 親水・親緑空間として水辺の道を遊歩道イメージで緑豊かに整備する。	P24 デザイン3(9)
	3. 水辺の道は、できるだけ水面に近づけ、要所で水にふれる場所をつくる。	P42 デザイン10
[たまり空間の形成]	4. 橋詰や河川沿の要所では、水辺の広場やアルコーブ(小広場)を設け、水辺の散策の休憩・休息の場所とする。	P33 デザイン6(1)
[景観材料]	5. 自然石や木(ポード)など、自然素材や質感のよい素材の使用を検討する。	
[夜間の演出]	6. 場所に応じて橋梁のライトアップを行うなど、夜間の景観に配慮する。	
[めりはりのある景観]	7. 流軸景観では要所で、景観のノード(焦点・結節点)やアクセント(添景)をつくる。	
	[ノード、アクセントの構成要素]・橋梁部、橋詰部、河川合流、分流部、 屈曲部 ・河川沿いの樹林地、など	
[多様な活動の場]	8. 場所に応じて祭りやイベントの場、水辺のレクリエーションの場として河川空間を整備する。	



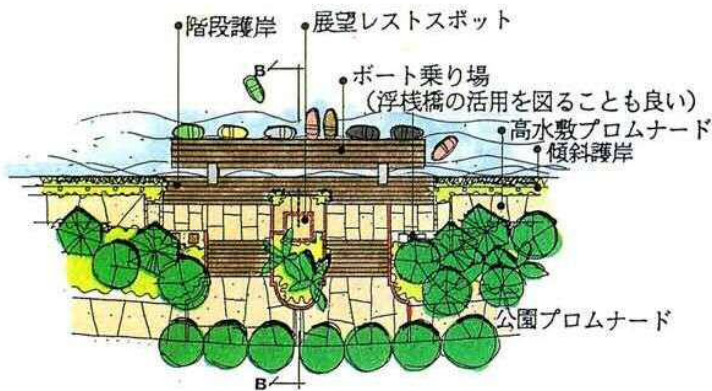
● 水辺まで近づけるように護岸の構造を工夫する。
(那覇市、首里)



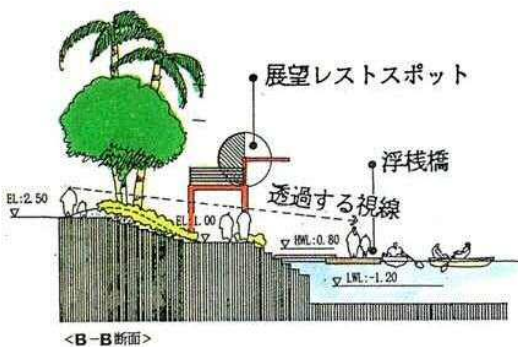
● より水面に近いレベルに人々が近づけるよう配慮する。
(那覇市、首里)



● 水辺近くに設けられた親水テラス。
(那覇市、久茂地)



● 水際は様々なレクリエーションの場となる。
(那覇市 首里)



● ウォーターフロントのレクリエーション・スポット計画モデル
(国場川・漫湖管理計画調査報告書、H. 4. 3、沖縄県)

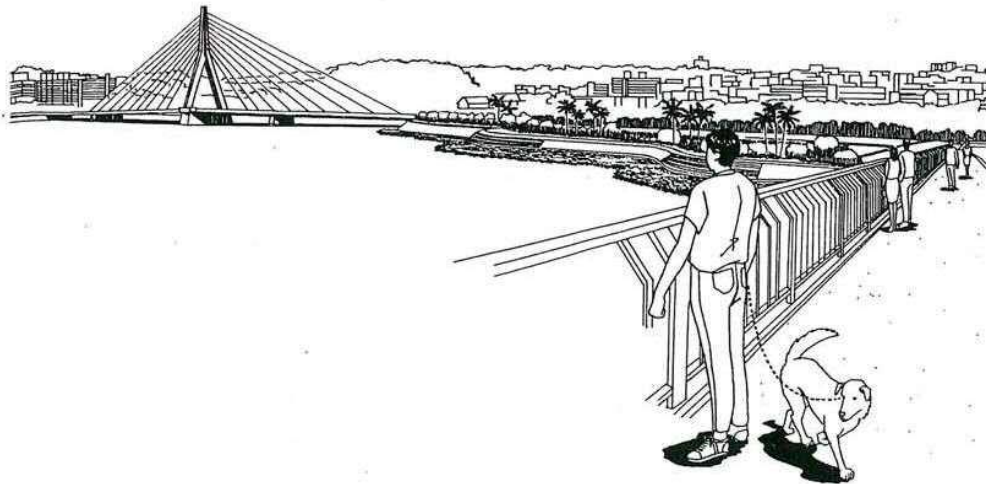


● 商業軸が隣接したにぎわいのあるリバーフロント空間を創出している。
(シブール)



豊見城高校北側区間 国場川側歩道 (A案) 49

- 河川沿の歩道は水辺散策のホームとなる
(漫湖地区修景詳細設計 H.4.3 沖縄総合事務局)



- 河川の橋梁は水辺の景観の眺望スポットとなる。
(漫湖地区修景詳細設計 H.4.3 沖縄総合事務局)

●景観形成の視点

建物が密集する市街地を流れる河川は、都市の貴重なオープンスペース（公共空地）であり、都市空間をつなぐ環境軸である。

沖縄の都市河川は、一般に規模が小さく排水路などの機能も併せ持つ。さらに、都市の身近な水辺として、また汽水域の貴重な自然環境としても重要である。都市の親水空間として、人々に親しまれる河川景観づくりを促進する。

(キーワード)	(配慮すべき事項)	(参照)
〔都市の自然・「風の道」の創出〕	1 河川沿いに豊かな緑を配し、連続させる。また、親水性の高い水辺を形成し水辺の道の整備を図る。	P16 デザイン2(3)
〔河川を軸とした町並景観の形成〕	2. 都市内に丘陵地や海からの新鮮な空気を導く河川は、都市環境を緩和する、「風の道」として活かす。	P13 デザイン1(6)
	3. 河川景観を都市の骨格景観として形成させる。そのために、河川沿いの景観の連携を図る。	P24 デザイン3(10)
	4. 通過交通が少なく、人々がゆったりと歩ける道路は、河川に隣接させて設け水辺の道として整備を図る。	
5. 河川沿いの建築物の顔を河川に向ける。また、河川空間に近づき易いように開口部や連絡路を河川側に設ける。		
〔河川空間の活性化〕	6. 公園・緑地や公開空地等は、河川空間と一体的な空間を形成するよう整備を図る。	P24 デザイン3(10)
	7. 水際のマーケット(市場)や商業活動を誘致し、都市の賑わい空間として河川空間の活性化を図る。	P24 デザイン3(10)
	8. ボートや釣り等、都市のクリエイションの場として積極的に河川空間の活用を図る。	
	9. 夜間の景観演出を行う。	



● 河川は都市の緑の骨格となる。(那覇市、久茂地)



● 河川沿にゆったりとしたオープンスペースと人々の交流空間を設けている。(沖縄県)

● 景観形成の視点

本県では、豊かな自然環境をもつ河川が数多く残っている。これらは、山地や森林と一体となった自然資源として重要である。

一方、河川改修などにより人工的で単調な景観に変化した河川も多くみられる。今後は地域の景観を構成する貴重な要素として、地域にふさわしい河川景観の形成に努める。

(キーワード)	(配慮すべき事項)	(参照)
〔自然河川の保全〕	1. 自然の河川はそのまま保存・保全を図る。 〔自然河川要素〕・自然植生：マングローフ、水辺植生、周辺の自然林 ・河道微地形：落差、瀬、窪地等、中州、干潟、 ・河川内の小動物とその棲息空間、河川水など。	P23 デザイン3(8)
〔里の河川の景観形成〕	2. 集落域や農地を流れる河川は、生活に身近な河川として田園景観に調和した景観形成を図る。 3. 護岸はできるだけ土や自然石等の自然素材の活用を検討する。 4. 構造物は形態などの工夫により単調な印象を和らげ、修景を施す。 5. 集落の水の軸・景観資源として河川の活用整備を図る。 河川沿い道路を水辺の道として、また、公園・広場を親水公園として、河川と一体的な整備を図り、河川空間を集落の空間資源として活用する。	P24 デザイン3(9) P42 デザイン10 P33 デザイン6(1)



● 自然河川の河口部は、保存・保全を検討する。
(石垣島、吹通川)



● 広大なマングローフの河口。(浦内川)



● 河川内に残された緑が河川景観に潤いを与えている。
(億首川)

施設類型	4. 海 岸	海 岸 1
------	--------	-------

●景観形成の視点

本県の海岸線は、サンゴ礁のリーフ や石灰岩台地の断崖など亜熱帯特有の多様な景観をもち、動植物の生育環境として、またレクリエーションの場として沖縄らしさを代表する空間である。貴重な自然環境を大切に、海岸の機能と自然環境の調和に配慮しながら、沖縄らしい海岸景観の保全と育成を図る。

(サブテーマ) 自然を生かす	(展開項目) ○自然を守り生かす
-------------------	---------------------

(キーワード)	(配慮すべき事項)	(参照)
[自然海岸線の保全]	1. 自然海岸は地形・植生・生物の生息地などを含む一連の生態環境として、その保存・保全に努める。	P20 デザイン3(2)
[人工海岸線の調和]	2. 人工の海岸線の整備に際しては、周辺の自然景観との調和に努める。	

(サブテーマ) 自然を生かす	(展開項目) ○自然を回復し、創り出す
-------------------	------------------------

(キーワード)	(配慮すべき事項)	(参照)
[自然の復元・再生]	1. 養浜や磯浜づくりなど、自然海岸線の復元・再生を検討する。	P21 デザイン3(3)
[豊かな緑の創出]	2. 海岸地区では、海岸植生や保安林、防風・防潮林的な緑化に努め、これらの緑をできるだけ連続させる。また場所に応じて、花木や地被・草花を積極的に植栽する。	P15 デザイン2(2)
	3. 海岸線の緑化・植栽に際しては、主として潮風や強風などの自然条件を把握し、以下の点に配慮する。	P16 デザイン2(4)
	①樹種の選定：基調種としては、郷土樹種（地方特有の樹種）在来種（近代育種が始まる以前から育成・保全されてきた樹種）が望ましい。	
	②段階的な樹林の育成：新規の緑化においては、早期成長樹種と本来の自然植生樹種の混植とし、幼木から時間をかけて、段階的に樹林を育成する。	
	③配植手法：樹高は海側を低く、内陸側を段階的に高くした放物線状の林冠形成とし、高密度植栽の導入など微気象を考慮した植栽手法を検討する。	



●自然海岸を保存、保全することで、自然植生をはじめとする一連の生態環境が保たれる。



● 沖縄の海岸景、I-と干瀬、紺碧の海。
(石垣島、白保)



●自然地形、植生が海岸景の重要要素となっている。
(宮古島、平良市)



●防潮林と海岸植生の緑が護岸の景観を和らげている。
(石垣島、白保)



●にぎわいのあるビーチでは、砂浜も積極的に緑化修景し、変化のあるビーチ景観の形成を図る。



● 親水護岸と養浜工。 (西表島)

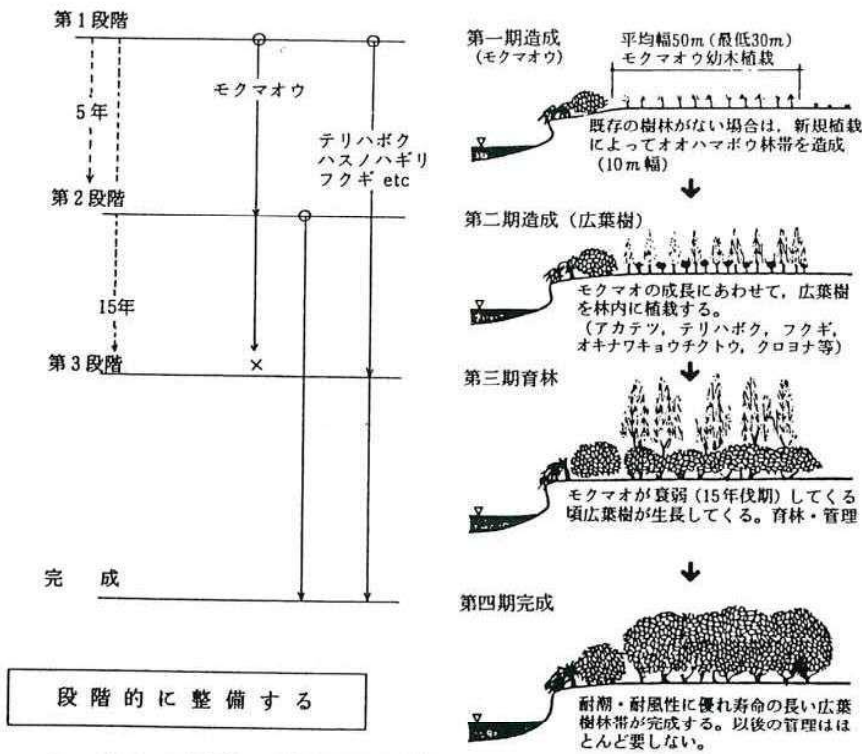


●海岸の構造物にも積極的に緑化することで、周辺自然域となじんでいる。
(シガポール)



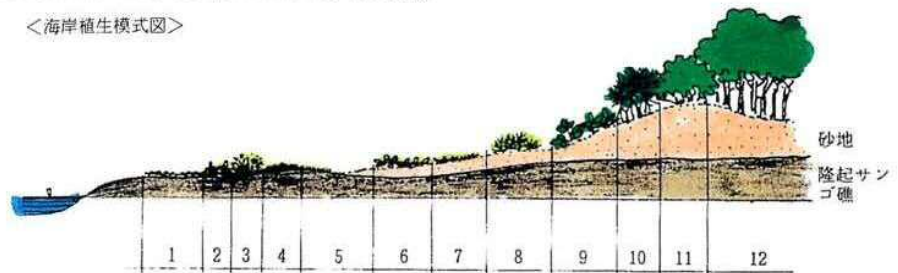
●添景植栽を施すことで、全体として落ちつきのある美しい樹林の景観となっている。
(石垣島、富崎)

<防潮林造成方法>



- 防風・防潮林の段階的形成手法。
(宜野湾港 港湾緑地基本計画・基本設計、1991.3、沖縄県)

<海岸植生模式図>



1	イソマツ群落	5	コウライシバ群落	9	クサトベラ・モンバノキ群落
2	モクビャッコウ群落	6	グンバイヒルガオ群落	10	アダン群落
3	ミズガンビ群落	7	クロイワザサ群落	11	オオハマボウ群落
4	イツフサギ群落	8	ツキイゲ群落	12	ハスノハギリ群落

- 海岸の自然植生模式図。
(沖縄県観光修景緑化計画 S.54.2 沖縄県)



- 海岸沿のイッヅは柔らかなイメージで形成させる。
(シジブール)



- 素材と形態が柔らかな印象を与える海岸の構造物。
(石垣島、富崎)